

NEWS 4

最新データで充実!
「超抗菌パンフレット」を大幅改訂

日本銅センターが刊行、銅の持つすぐれた超抗菌性能を紹介するパンフレット「まだまだ知られていない 銅のすぐれた超抗菌パワー」は、発刊以来各方面から注目を集め、重版を重ねてきた。折々で新しいデータに刷新してきたが、昨年11月にそのデータを大幅に刷新、構成も組み立て直した「新版 超抗菌パンフレット」として生まれ変わった。

構成は以下の通り。

- 銅のすぐれた超抗菌パワー
- 銅のすぐれた超抗菌性
 - O157に対してすぐれた超抗菌効果を発揮
 - 恐れレジオネラに銅の超抗菌効果
 - 従属栄養細菌に対する超抗菌効果
 - 銅の超抗菌作用を米国政府が認定
 - 最先端の「北里大学病院」で超抗菌効果を期待
 - 身近な所で威力を発揮する銅パワー
 - 銅の超抗菌効果を暮らしのすみずみまで
- 銅は大事な栄養素
- 緑青への誤解

なお、このパンフレットは日本銅センターホームページにも掲載している。



TOPICS 1 日本伸銅協会 「伸銅品技術戦略ロードマップ」活動を
高機能金属展で紹介

日本伸銅協会は、昨年7月に発行した「伸銅品技術戦略ロードマップ2019」の紹介を目的とした高機能金属専門セミナーを12月6日(金)、第6回高機能金属展(於、幕張メッセ)にて開催した。当日は9時30分という早い時間にも関わらず86名の受講者が参加し、技術部 幸部長の報告に熱心に耳を傾けた。

今回のロードマップは「国際素材メジャーへの挑戦」と題し、M&Aにより規模の拡大や品種別の専門化を指向する海外メジャーに対抗するための国内素材メーカーの取るべき戦略として、① 専門性を高め大型投資を可能とする規模の追求、② 知財の戦略的活用を示し、そのための高い専門性、業界協業による新規市場創生、学との連携強化による市場ニーズに対応した技術の育成の必要性を語り、我が国伸銅業の進むべき道を示した。また、具体的な成果として、複数の会員企業と大学とが連携して受託したNEDO戦略的省エネルギー技術革新プログラムへの取り組みや日本銅学会内に立ち上げた「研究部会」などを紹介する貴重なセミナーであった。



編集後記

銅は人類が初めて発見した金属であり多岐にわたる使い方があります。銅像から神社仏閣の屋根、花火の色付けなどの歴史的な用途をはじめ、乗り物のモータ周辺やコンピュータなどの近代的な用途として、数多くの銅が使われています。銅には様々な特性があるからに他なりません。昨今、中国の武漢市から感染が拡大したとされる新型コロナウイルスへの対策にも、銅の超抗菌性が活用されることを願ってやみません。

編集デスク 森川 純一(日本銅センター)

情報発信委員会

〈委員長〉磯部剛(古河電気工業(株))
 〈委員〉鉦山 / 松田光司(三菱マテリアル(株))、
 菱田謙一郎(バンパシフィック・カッパー(株))、
 水谷順二(日本鋳業協会)
 伸銅 / 米津伸保((株)神戸製鋼所)、
 多々羅徳昭((一社)日本伸銅協会)
 電線 / 吉村志登美((株)フジクラ)、
 前田かおり((一社)日本電線工業会)
 ((一社)日本銅センター)和田正彦、幸洋二、小澤隆、高島宗彦

NEWS 1

「第2回電線地中化ワークショップ」を開催

日本銅センターと国際銅協会(ICA)は、昨年10月、前年に引き続き、東京、大阪で電線地中化ワークショップを開催した。2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて電線地中化が加速しつつあるものの、100%地中化されているロンドン、パリ、香港、シンガポール等の海外に比べると東京23区でも地中化率は8%、大阪市で6%と日本における地中化の進捗は依然低迷している。しかしながら、昨年9月には千葉県を中心とした関東地方で想定以上の強風を伴う台風15号により、架空電線の断線が多発した結果、大規模な停電が発生し、完全復旧までに長期間要したことから、電線地中化への要望が今まで以上に高まってきている。

今回のセミナーでは、地中化率100%のシンガポールから3名のエキスパートを招聘して、現地での地中化工事のノウハウや保守点検およびトラブル発生時の対応方法等を紹介してもらうとともに、前回も招聘した韓国木浦海洋大学のリム教授からは、韓国において地中電線の素材がアルミから銅へ切り替わった経緯についての詳細な解説がなされた。会場には東京電力、関西電力等の電力会社をはじめ、経産省や電線製造メーカーから約40名が参加し、熱心に耳を傾けていた。

国土交通省は、2018年度から20年度までの無電柱化推進計画1400kmに加えて、一昨年大阪地方に大きな被害をもたらした台風21号の暴風に伴う電柱倒壊を踏まえ、2020年度までに緊急輸送道路約1000kmの無電柱化推進を決定しており、国内全体の電線地中化への気運は盛り上がっている。地中化推進の最大の障壁は、5.4億円/kmと言われる海外に比べて非常に高いコストであり、今後のコストダウン方策の提案を含めて電線地中化のプロモートを継続して行く。



講演するカーロ・ソリューションズ社
ニコラス・リー氏



NEWS 2

「冷媒用被覆銅管 施工マニュアル」を刊行

日本銅センターは、昨年12月に冷媒用被覆銅管の施工法をわかりやすくまとめた「冷媒用被覆銅管 施工マニュアル」を刊行した。

従来、冷媒用被覆銅管の施工手順には標準化されたものがなく、現場単位で施工要領がまちまちのため、同じような不具合事例が複数の現場で発生していた。このような状況下に日本銅センターでは施工マニュアル作成分科会を立ち上げ、冷媒用被覆銅管メーカー8社と原管メーカーの協力のもと、編集作業を進めこのほど刊行の運びとなった。

このマニュアルは、基本事項はもちろん、各社が持っている過去の不具合事例をもとにさまざまな注意ポイントを写真やイラストを混じえながら、わかりやすく解説している。間違いのない、より確実な施工実現に役立てていただきたい。

なお、このマニュアルは日本銅センターホームページにも掲載している。



NEWS 3

「第6回高機能金属展」に出典

日本銅センターは、昨年12月4日～6日に幕張メッセで開催された「第6回高機能金属展」に日本伸銅協会と共同で出展した。

ブースでは、日本銅センターの活動事例として細径銅管プロジェクトの紹介や日本ガイシ株式会社、清峰金属工業株式会社、日本伸銅株式会社の協力を得、幅広いフィールドで活躍する高機能材料・銅の魅力を発信した。

なお、展示期間中に開催された専門技術セミナーでは「伸銅品技術戦略ロードマップ」活動を紹介、早朝という時間帯にもかかわらず、多数の受講者が参加、熱のこもったセミナーとなった(15ページ参照)。

